〔大正十年四月二十二日第三種郵便物認可〕　帝都城新聞　〔昭和五年五月一日〕

（三十日夕刊）
休刊　大祭日　第一、第三日曜
定價　一ケ月　一部二錢　郵稅五錢
廣告料　登行六十錢　指定廿錢　特
發行兼編輯兼印刷人　藪沼鐵藏
發行所　帝都城新聞社
電話（大）四三六番

國防を政爭の具に供す
濱口內閣の責任

ロンドン海軍條約に關し懸念なきを得ない。

かくの如き懸念あるを以て、わが國防の安危に關する寃緩が生じたといふことはわれらは先頃一應この問題を論ずるに當つて、濱口もなく、政府が當初の原則首相は議會の擔上にいてを堅つに當つて、海軍々令一般國民の不安を拂拭する部との間の諒解が十分でなためにわが國防の絕對安かつたといふことから出發全なるゆゑんを明確にせんしてゐるやうである。濱口ことを希望していたので首相と幣原外相との議會にある。濱口首相は、國防上にる演說では、軍部との不安なしといつてはゐるけ諒解を經たものであつてわれども何故に安全であるかが國防の欠陷を云爲する如きは、全く悲觀的の甚だしはいかなる根據によるものきものであるといつてゐるかを聽かぬ。この兩相の演說だけや聽けば政府と軍部との意見が阻隔してゐるやうな形跡は認められない。從つて一般國民も安堵して可成りであるけれども、この間のいきさつが說明し海軍部方面の消息として傳へられるところによると軍部が政府の回訓案に同意し能はざることは、今なほ昨夜の如く少しも變らぬといふことである。それであるから、政府催の言ひ分を無條件に信じて了へば、毫も不安は起らないけれども、事實は一般國民が國防問題であるが故に軍部の言ひ分をもこれを無視することは出來ぬ。從つて國民としてはそこに大なる

つてゐるものを見てゐながら狸寢入りをしてゐる。中るが、まだ〳〵公衆道德を には土足のまゝ向ひ側の腰冒瀆してゐるのが澤山ある、勿体ない話が紳士らしい樣子をしてゐてもこれ等は家庭に歸つてその妻君に味噌桶を便所と同居させ平置かれても平氣でゐる代物だ。

それが車掌に搖り起されて平謝憤慨したやうな表情で澁々起る恰好が面白いので俺も近ごろ一人で二人分も四人分にもがさばつてゐるのを態々起してやることにつくづく思ひ知らされた。

車掌さんだちも大分こうした、が此等は當然來るべ

公衆道德を守れ

私設車掌投

定期券といふものは個承知の通り値段が安いといふ特典があるので少く共この特典に浴してゐる以上吾々はあまり贅澤なことはいはれない譯だがしかし物事は程助かるがいくら寒くなうはいかない。定期券でくても墜道が幾つもある歩いてゐる以上偶に乘客とは違ふつまり寄席ならば全く困る。

定連呉服屋なら取り付けいよ立派な得意だから盆暮れには鐵道大臣からつけとどけ位あつて然るべしだところで定期券で毎日乘つて歩くものに尤もよく目につくのは花見や競馬といつたやうな時分だが例へばしい恰好をしてゐながら立派な洋服を着て美髯を蓄へた奴などが一人で二人前も三人前も占領して頑張つてゐるのがあるが、自分の利害のためにはしい事だ。

短い距離ではあるにしても便所の側やドアの脇へ立往生をさせられるには一番閉口する。それも幸ひにしてゐる以上吾々大抵は寒くない時季なのでしい樣子をしてゐてもこれ助かるがいくら寒くなうはいかない。定期券でくても墜道が幾つもある所に咏嘆を便所と同居させ平置かれても平氣でゐる代物だ。

而も皮肉なことにさうした時に限つて立派な洋服を着へた奴などが一人で二人前も三人前も占領して頑張つてゐるのがあるが、自分の利害のためにはしい事だ。

平の映畫界

T C 生

「ビッグ・パレード」と「ッン世界一周」の二れると云ふ事は神のお利益かも知れません、と思ふのだから彦九郎が伴ひ歸つたいといふことにも、何かしらひたひと紙上より各深い仔細——夫婦約束といふようなものがないとはなほ」心なしか今日の聲は保證し難いといふような氣いつもよりずつと美しくがして來ました。

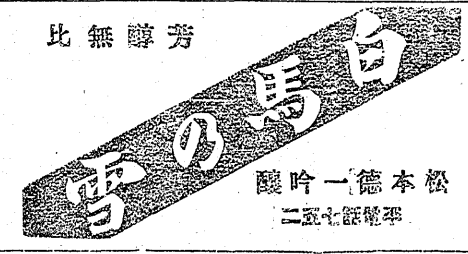
「しかし、心配しなくともいゝよその中になんとかなるだらうから……」

その日はそのまゝに打ち過ぎましたが、それからは甚作の心の中にはたゞそのことが考へあはされて居りました。

——さうだ。それがいゝそれは、それから四五日たつたある日でした。甚作はやつとさう叫びをあげるところまで達しました。といふのは——

——彦九郎は、勿論正妻として眞弓を迎へるのだらうが、盲の身をあつて見れば狹事や、洗濯などには何かと不自由。そこで光を妾として召し抱へていたゞいて、眞弓の不自由さの手助けをすることにしては……といふ考へでした

——さうだ。それがいゝひと通り、た光にるたとせにも相談しましたが、勿



「えゝ」と、た光はもう一度悲しさうに頷いて

「でも、きつとさうなるに違ひありませんわ。あのお嬢さまですもの、それこそお見合ひなさらないけれどた武家さまのお嬢さまですし、それにあんなにも氣品高くて美しいお方なんですもの……妾なんて、とても及びもつきませんわ」

「ふうむ、それはさうだなで、氣まぐれな春風のたよ甚作も、お光のその言葉りに、庭の梅の木が一ひら全然杞憂に過ぎないとは二ひら花をひらいて居りまが考へられなくなつて來ました。改まれば改まる程ざた。殊にわざ〳〵西國くんこちなくなるのをもとかしたいふことにも、何かしつてロをきりました

「ほんに、左樣でムります

甚作はさいふよその中になんとかな

全世界の驚異!!行程實に三一五〇〇キロメートル・居ながらにして世界一周!!
見よ!!巨船上より見る天界と地上の大壯圖!!

空中世界一周

最大の光榮を賜る世界唯一寶玉映畫　陸軍省、海軍省、遞信省、參謀本部、敎育總監部、霞ケ浦航空隊、帝國飛行協會御推賞

ツエッペリン伯號　〔全十卷〕

地球儀斷一周見よ！森羅萬象の壯絕なるを!!　この壯大なるパノラマ正に世界に輝く巨大篇!!
敎育上の參考品!!　學術上の最大收獲篇!!
飄逸フリードリツヒ・ハーフエンより伯林、バルチツク海、ウラル山脈、シベリア大原始林を經て大日本北海道、東京、橫濱、霞ケ浦を越ゆる大空飛行、後桑港、ロスアンゼルス、メキシコ國境、ロツキー越、カンサス市、ミシシツピー河、市俄古、紐育レークハーストより太西洋橫斷、フリードリツヒ・ハーフエンに歸着まで大壯擧!!

◆メトロ・ゴールドウヰン・メーヤー超特作
原作……ローレンス・ストーリング氏
主演者　ジヨン・ギルバート氏　ルネ・アドレー孃　（全十二卷）

ビヴァ・パレード

◆突如大進軍命令が下つた……數萬の軍隊は行進を起すラッパの音　戰車の響……人又人……其所に繰ろくべきリズムとスウイングがある　富豪の息子であるジム……バアランダアであつたブル……勞働者であつたスリム三人は最も仲良しの戰友である、それでも三人三樣の性格が或は涙を生み、義憤を生み、喜劇を生み、戀の競爭を生む其處にキング・ヴイダアの洗練され—た「感傷」が澄渡と光輝を增すのである（長期レコード破らる、本映畫は紐育市に於て三ケ年余續映さる）

◆五月一日、二日（二日間限り）
◆二日間晝夜二回公開
◆此の光輝ある大名篇
兩館同時公開を致します
從前發行の入場券御斷り

入場料　普通席　大人四〇　小人一〇〇
一等席　大人五〇　小人二〇
特等席　大人六〇　小人三〇〇

平館　有聲座

初夏サロンの新裝
四月十日ヨリ

樽詰生ビール並にタンク入ソーダ水の用意が出來ました

ソーダファンテン設備完成
カップ　一杯　十五錢
ジョッキ　一杯　五十錢
ドーゾ御散歩がてら御來店を……

美味で評判のサイフ　サロン

平町田町　電話三五二番

內科、小兒科
花柳病科

入院應需

藤沼醫院

平町　綢屋　町
電話㊈㊊五〇七番

清世界釀造元　石城小名濱町
酒銘　清水屋
各炭鑛御用達　小野晋平
電話六番

內臟外科
外科一般
花柳病科

入院隨意　自炊の便あり、
平町田町赤心堂病院跡
安齋外科醫院
電話四三六番

入院隨意（自炊の便あり）
X光線科
外科專門
平南町
上田外科醫院
電話一二九
增築落成
病室完備

外科一般（入院隨意）
內臟外科專門
花柳病科
平町六丁目（橋際）
木村外科醫院
電話三〇九

前の署長や町長から二萬數千圓を詐取逃走
行きがけの駄賃に藝者を伴れ
巧妙な犯罪の手口

石城郡平町鍛治町高根澤藤太郎方居住原籍靜岡縣濱松市柳田辰三郎(三五)は昨年五月頃から去二月まで同町南町某料理店を根城にして豪遊を極め遊興費二千圓を

踏み倒し 一千四百圓の前借ある平町新田町橘家抱へ藝妓千代を連れだして二月十一日の夜逃走し行方をくらましたので平署では濱松警察署に對し辰三郎の身元照會をすると共に辰三郎の行方を搜査中であつたが最近に至り俄然大事件が發覺した、辰三郎は前科三犯のしたゝかもので各地に於て詐欺罪を犯してゐる今回の事件も平地方の有力家を欺いて多額の金品をまき上げたことが判明した、平署は關係者が何れも地方有力家だけに事件を

極秘に附 して辰三郎逮捕に向つて大活動中であるが辰三郎は昨年の九月中石城郡江名町の有力家吉田正雄氏に不渡手形を濫發し前平町長伊坂直正氏から一千圓を詐欺したのを手始めに前平警察署長伊藤儀七氏から九百圓、吉田正雄氏から千餘圓その他合計二萬數千圓を詐取してゐたものである事件發覺の動機は平警察署が濱松警察署に辰三郎の身元調べの照會をしたその

回答によ つたものである柳田辰三郎とは眞赤な偽りで前科三犯昨年四月中濱松刑務所を出獄した住所不定濱松生れ靑木吉五郎(三六)といふものである

料亭で舞ねた 巧みな猿芝居
空の土地を種に賣つて まんまと一仕事

前平署長伊藤儀七氏前平町長伊坂直正氏其他有力家を巧みに欺き二萬數千圓を詐取して逃走した稀代の詐欺漢靑木吉五郎の犯行は頗る巧妙を極めたもので一見堂々たる紳士然の靑木は去る九月中手蔓を求め前記江名町の有力家吉田氏の紹介で次第に有力家と親交を重ね根城として居た南町某料亭に前後數回に亘り是等の人々を招待した上その席上で榛原と自稱する友人を紹介し更に去る十二月中同樣饗應して居た際同

料亭に東 京の榛原から電話を以て濱松の所有地が二萬六千圓、西郷南州の掛軸一幅が二千圓で何れも賣却契約が成立したとの報せが來たので居合せた人々は何れも其成立を喜んで祝杯が擧げて大騒ぎを演じたが吉五郎は自分は平町に永住する考へであると稱し代金は前記所有地を賣つた金を入手後支拂ふ約束で平町仲町五番地伊藤儀七氏隣の空地を

借受け約 五十坪の住宅建築に着手し更にその土地及び住宅を擔保として平町某氏から三百圓を借る等巧妙な手段に被害者は何れも今更のやうに驚いてゐるが濱松賣却地の代金二萬六千圓を受取りに行くと稱して料理店より現金三百圓、吉田氏から六百圓、同居してゐた高根澤が長男の婚禮費として虎の子のやうにしてゐた百五十圓等合計千五十圓を借受け去る二月十一日夜急行で上京其の儘行方を晦ますに至つた其鮮かさには流石の刑事連も舌をまいてゐる

あす町村長に 道路愛の告諭
平監督所で宣傳

平土木監督所では明五月一日の道路愛護デーを期し道路愛護の宣傳をなすことゝなつたが小柳知事より各町村長に對する道路愛護の諭告は左の如くである

道路は吾々の實生活において最も價値の多いものでまた地方の開發、産業の發展にはきはめて重大なる關係を有してゐるのであります。縣ではこれが改正發達と維持保全とについては出來るだけ力を盡してをりましたが今や本縣の國道および府縣道の延長は合せて一千三十餘里に達して居るので限りある人員と經費とをもつてその完全を期する事は實に困難の業であります。これがためには必ずや地元市町村住民の道路にたいする熱烈なる愛護の精神に基き其協力に俟たなければならぬのであります惟ふに地元住民が關係道路を愛護して其維持保全に協力する事は實に社會奉仕の美風であり、而かもまた古來の良俗ではありましたが、近時道路の保全は一に管理者のなす處のみに依賴して地元の人々は一向にこれを顧みない傾向があるのは誠に遺憾にたへないのであります。謂ふ迄もなく道路の恩澤は地元住民の浴する處最も多いのでありますから常にこれが保全を念としてあたかも自己の工作物に對すると同じ樣な氣持でこれを愛護しその機能を增進することに努められたいのであります、今回發布された道路愛護奬勵規程もこの趣旨に基き縣內各路線を通じて夫々道路愛護組合を設け地元住民の奉仕的努力によつて管理者としての縣の施設と相俟つて道路の完備を期することを目的とするのであります、どうか縣民諸子もよくこの輸旨を諒とせられて益々道路愛護の良風を作興し以て本規程所期の目的の達成に努められむことを望む次第であります

覺醒せよ昭和の靑年よ(五)
大和田豐吉

是が天照皇大神より代々承け繼がせられて我が現人神たる　今上天皇陛下にまで至つて居るのであります故に日蓮上人は曰く

神をば天照と云ふ國をば日本と云ふ日本國の王となるは天照大神の御魂の入りかはらせ玉ふものなり

と誠に有り難き限りである又神武天皇は是を種々解釋せられて又勅語を下し賜つた其勅語に曰く

從は荒きにあひ時に暗きにあたれり故に暗くして以て正を養ひ

又曰く

皇祖皇考乃神乃聖にして慶を積み暉を重ね

と此養正積慶重暉の三は我が大日本帝國の三大方針にして正を養ひ終始一貫正を行ふのが我大日本國の國策である然らば正とは何か正と云ふ文字を分析すれば正は必ず一に止まる此を爲しても可彼を爲しても可と云ふが如きは決して正で無いのであります正は必ず一に止まる一を行ふて而して正しいのであります。其一は善か惡か惡を行へば慶を積む意味にはならぬ善を行ふて每日々々善を行ふて而して後に喜びを重ぬる事に爲る故に其一に止まると云ふのは善を行ふ事に爲るのであります善を行ふて慶を重ぬれば末は自然近鄉近在に知られて光輝を發揮する事になるのである是が我が大日本帝國の　皇室の萬國に優れたる所以で又我が國民が萬國に卓越したる所以である

尙神武天皇は亦曰く

苟も民に利有らば何ぞ聖造即ち聖の幸、妨げあらん

と仰せられ

上は則ち天つ神の國を授け玉ふ德に答へ下は則ち皇孫養正の心を弘め然る後に六合を兼ねて以て都を開き八紘を掩ふて宇と爲す亦可ならずや

と仰せられて六合即ち上下四方を云ひ轉じて天下世界宇宙をいふと解釋してあるが所謂天地四方を平和に開拓して以て都を開き而して又八紘即ち八方の隅若しくは土地の端で八紘と云ひて宏大なる土地を家となすのである、淮南子に九州の外に乃ち八遠あり八遠の外にして而して八紘有りとあります。遠は延なりで土地の果を云ふと云ふ事でありますから遠い國々の土地の端までを云ふのであらうと思はれる即ち天下萬國若しくは地球上至る處の國々までも德を以て濡ふして家と爲す亦可ならずやと何と遠大な抱負ではあるまいか、是が即ち吾人の所謂吾が大日本帝國の縱の使命と稱すべきものであらうと思ふ

更に橫の使命は即ち每年伊勢に坐す、皇太神宮に申し上ぐる祝詞で其文句は左記の如くである

皇神の見はるかします四方の國は天の壁立つ極み國の退き立つ限り靑雲のたなびく極み白雲の墜り居向か伏す限り靑海原は棹舵干さず舟の艫の至り留まる極み大海原に舟滿ち續けて陸より往く道は荷緒かひ堅めて磐根木根踏みさくみて馬の爪の至り留る限り長か道間なく立ち續けて狹き國は廣く峻しき國は平けく遠き國は八十綱打掛けて引き寄する事の如く云々

を以て我が國の橫の使命の即ち我々國民の先祖の抱負の如何に偉大なるに驚かざるを得ないのである、而して此縱の使命橫の使命の渾然一體となりて永遠無窮に瀰漫する處又宏大無邊に被及する處是我が國體の尊嚴なる所以であるを思はざるを得ないのであります。

四倉校庭の改修
砂が飛び散る

四倉町尋常高等小學校の校庭は砂利の爲め風の吹く度に塵芥が吹飛び同校舍內に入り教室內は五分程も積ると云ふ、甚だ不衛生極まりない斯ては兒童保健衛生上默過出來ないからとて騒いでゐるから近く改修工事をなすに至るであらう

鰯大漁
百尾六七錢

石城郡各濱は二三日前から近年にない程の鰯の大漁續きで大賑はひを呈して居りこれがため平町などは何所の魚問屋にも鰯の山を築き小賣相場などは六、七寸ぐらゐの大きなものが百尾僅かに六、七錢といふ安値ぶりだが鰯の大漁あるときはこの年は鰯も大漁だと昔から漁師間に傳へられてゐるので各濱の活氣はすばらしいものであると

鳴りを靜めて 動かぬ候補者
運動費に脅かされてか
平町の家調選擧

平町に於ける家屋稅調査委員選擧は來る五月十一日執行される筈であるが剩すところ正味十日に接迫した今日なほ未だ正式に立候補したものない許りか各町內とも最寄り〳〵に物色中であるが只今のところオイソレと立候補するものもなくお話りの有樣である、之れは此の選擧は普通選擧法よりも取締りが後漫なところから運動費金も相當に覺悟せねばならず搗つて加へて昨今の不景氣から斯くは鳴りを靜めてゐるものらしいが何れにしても茲兩三日中には決定を見猛烈な運動が開始されるであらうと

四倉座の賊
履物が專門

四倉町海盛座に於て市川玉太郎一行の芝居興行中なるか近頃每夜の如く下足番の隙をねらい他人の上等なる下駄を竊取し去る者あり或は專門的履物竊盜と目星をつけ四倉署で嚴探中

大野村地方 春蠶掃立

石城地方における春蠶兒は目下催靑中であるが桑葉の發育非常に早く既に掃立てもよいのがある、蠶種中には冬期中倉庫にも入れず放任して置いたものはそこ〳〵はい出したのもありこの分で行けば大野村附近は二三日中に掃立てるのがあらう、霜害は今が最も恐しい時であるが氣候狀態から見て大低は降るまいと思はれる掃立枚數は前年の三萬八百五十枚に比し約五分增加に當る三萬三千枚見當と見られる、增加の原因は桑葉の發育良好並に糸價低落による減收を埋め合せんとするものにあると

四倉産婆總會

四倉管內産婆組合總會は去る廿七日同驛樓上に於て開催された

元平署の跡に 小公園を建設
多少の寄附も辭さぬと
關係區長が陳情

平町西部の紺屋町、一、二丁目、材木町、紺屋町、長橋町、研、古町、才槌小路の各區では協議の上舊平署跡敷地三百四十坪の內道路を除く二百餘坪を平町で拂ひ下げ小公園を作つて町の風致を添へるほか萬一の場合に備ひる樣、若し實現するとなれば地元から應分の寄附も辭さぬと云ふ熱心な運動で町當局では誠意ある考慮の上希望に添ふ樣努力すべきことを約したが實現出來るとなれば西部方面の爲め相當の福利となるであらうと期待されてゐる

柏原家慶事
令息光太郎氏婚姻

平町三丁目三井吳服店主柏原幸次郎氏令息光太郎氏は今回井上茂作氏夫妻の媒酌により四倉町長谷川豐之助氏長孫孝子孃と婚約整ひ六日華燭の典を擧げる七日午前十一時より谷口樓で披露式を擧行すると

記者募集

中學三年修業程度以上の學力ある男子、身體强健にして新聞記者生活に趣味を有する者二名(平町居住者に限る)を至急募集す希望者は履歷書持參本人午前中來社あれ委細面談

磐城新聞社

石城郡下の 徵兵檢査
左の日割で執行

石城郡下の徵兵檢査は左記日割で決行すると

六月二十八日勿來、山田、錦、同二十九日泉、渡邊、植田、同三十日入遠野、上遠野、川部、七月一日田人、同三日大野、四倉、大浦、同四日鹿島、玉川、湯本、同五日澤渡、永戶、草野、同六日小名濱、江名

平町の車數
自轉者が最高

平町當局が最近調査した平町の車の種類を見ると左の如くであるが一番多い自轉車は三戶で一輛を持つてる

▲自轉車一、四八三臺　リヤカー二四六臺　自動車(客貨共)六五臺　荷車五三三臺　荷馬車一三臺　人力四臺　サイドカー一三臺

四倉火防宣傳

四倉消防組では去る廿七日火防奬勵各竈戶の檢査をなした

坑夫の喧嘩
平署で檢擧さる

石城郡湯本町上町入山炭礦雜夫神永樂吉(四五)は二十七日午後六時ころ隣家の石井松五郎(五八)と芥捨てのことから口論をなし神永は拳大の石を以て石井の顏面を毆打し失明せるほどの重傷を與へたので二十九日檢擧

勤續職員の 表彰式
磐中創立記念式

平町縣立磐城中學校では來る五日創立三十五週年記念式を擧行するが當日は十ケ年以上勤續左記職員の表彰並に植竹、西村、桐谷、滑川の四物故校長外二職員の追悼會をなす外全校生徒の陸上競技大會を催す由である

▲十ケ年勤續職員山崎宣吉、小野寬夫、遠藤平太、廣田德行、大橋芳太郎、近藤廣記、山名隆貞、大橋秀冬、中梨光顯、山大良作、紺野勝作、酒井國三郎

時言

平町の家調委員選擧、候補者出盡る

□ 名譽も欲しいが金も使ひたくなし、是れが當節野心家心理だ

□ 紺屋町に小公園建設、監督所に遊覽道路開鑿の陳情

□ 平町役場當局、空腹を抱いて目を白黑の態

□ 遠足運動から敎員慰安の意味を拔けば他に何等の實益なし(いはらき)

□ 斯ふなると學校の存在そのものは、敎員を扶助する以外、他に意義がなくなりやしないか

夜間診療

胃腸　梅毒

內科　十二指腸虫病　專門　內科部

淋病　婦人病　皮膚病　專門　外科部

松村胃腸科醫院
(平町南町電話一〇七番)

平町紺屋町
吉田眼科病院
募集。看護婦(資格者)

良品廉賣に勝る商略なし
磐城セメント特約代理店
金物問屋　和洋銅鐵
(久) 釜屋商店
磐城國平町五丁目
電話九番一三九番
振替貯金口座東京一〇九五六番
確實敏捷は(久)の生命なり

植田町本町
前田醫院
…入院隨時…
電一二四番

三春の行樂麗らかな裝ひに!!!
御用命は何卒三井へ
京御召　錦紗小紋　羽二重帶側
本セル　銘仙　着尺モスリン
時節品豊富取揃へて御座います
三井吳服店

故父淺吉葬送の際は遠路の處態々御會葬被成下且つ御鄭重なる香奠を賜はり御厚志の段奉深謝候一々拜趨御挨拶可申上筈の處乍略儀以紙上御禮申上候

明智榮司
外親戚一同